大学実務家教員養成コース修了認定者のうち大学・短大教員希望者

No.	氏名	年齢	最終学歴	学位	資格・修了証	現職	企業・法人等 経験年数	所属学会	主な専門分野	著書・論文 調査分析資料	私が目指す 大学教員	希望職位
4	Ｓ・Ｙ	68歳	1980年 横浜商科大学・商学部 経営情報学科卒業	学士（商学）	宅建物取引士 ファイナンシャル・プランナー（AFP） 行政書士	行政書士事務所経営 東京簡易裁判所 司法委員	37年	なし	ファイナンシャルプランニング並びに法教育 ●専門分野 １， 企業人と勤務していた時の経験から、経理・財務等の関連、融資審査の関連、不動産の関連、貿易の関連 ２， 現在の行政書士としての経験から、法律関連 ●学生指導、教育 １、 外国人向け日本語教育経験 ２、 小学生向け法教育経験 ●その他 １， ファイナンシャル・プランナーとして、無料相談会での相談員として参加した際に体験した相談者のつかみどころのない相談。 ２， 行政書士として無料相談会で相談員として対応した際に体験した、相談者の無料相談の限度を超える相談。 ３， 司法委員として裁判法廷に同席した際に体験した原告と被告の感情論のぶつかり合い。 以上の３つは、リーダーシップ、コミュニケーション、傾聴力等の育成、心理学の学修に活かせると考えております。	なし	私は、国内企業に20年、外資企業（米国）に17年勤務していた経験から、各々のメリット・デメリットはあると思ってますが、勤務していた外資企業の会社の風土や仕事のやり方は、学修に置き換えるとアクティブ・ラーニングに通じるものがあったと思っています。 私は、国際競争力を向上させるためにも従来の受動的学修から能動的学修（アクティブ・ラーニング）に改めるべきと考えます。従って、私が目指す大学教員像は、学生主体の能動的学修（アクティブ・ラーニング）で、教員はあくまでサポートの役目をするという立ち位置で授業を進めて行くというスタンスのものです。 教員として前記サポートをするには学生に適切にアドバイスするということが必要になるので、自分自身もいろいろな知識や経験を得る必要があると思います。言い換えれば、学生と教員がお互いに切磋琢磨して行くということも重要と考え、日々、研鑽していく所存です。	常勤・非常勤